



認定NPO法人サービスグラント

東京オフィス（団体本部）

〒150-0002
東京都渋谷区渋谷1-2-10
TEL 03-6419-4021
FAX 03-6419-3885

関西オフィス

〒541-0047
大阪市中央区淡路町2-5-16
淡路町ビル8F
TEL 06-6484-5810
FAX 06-6484-5820

九州オフィス

〒849-3131
佐賀県唐津市厳木町厳木1018
TEL 080-3216-1269



HP <https://www.servicegrant.or.jp/>
Facebook <https://www.facebook.com/servicegrant>
Instagram <https://www.instagram.com/doiitprobono/>
X <https://x.com/helloprobono>
YouTube <https://www.youtube.com/c/ServiceGrant>



 **SERVICE GRANT**
認定NPO法人サービスグラント

2025-2026
(2025年4月1日-2026年3月31日)

年次報告書

2025 TOPICS

2025年度トピックス

DO+ENABLE

QUALITY PRO BONO EVERYWHERE



VISION

社会参加先進国へ

社会課題を前に、互いの立場や違いを尊重しながら、当たり前のように協働できる社会を目指して

MISSION

プロボノを進化させる

Quality Pro Bono Everywhere

常に質の高いプロボノを行うためノウハウを蓄積する

Do + Enable

他者との協働を通じてプロボノの可能性を広げる

参加登録者数1万人を突破

サービスグラントのプロボノ参加登録者数、及び「GRANT」参加登録者数の合計が1万人を突破しました。

参加登録者数：
10,000人突破

GRANT実績数：
1,000件突破

「GRANT」のプロボノ実績が1,000件を突破

社会参加プラットフォーム「GRANT」におけるプロボノ案件実績（「プロジェクト」及び「オンライン相談」）は、2025年度までの累積で1,034件に。各地のコーディネーターや受講者数約100名となった「社会参加オープナー」等の活躍により、プロジェクト型協働の機会創出が着実に進んでいます。

GRANT
by SERVICE GRANT



「サービスグラント」は、活動20年を経て新たな体制へ

創業者から次の代表へ。これまで積み重ねてきた実績をつなぎながらも、スタッフ全員が自律的に取り組む新たな挑戦のステージへ。創業当時を支えてくださったプロボノワーカーさん・団体さんから近年交流が始まった方まで、東京・大阪でとりどりに集まり、オープンデイを実施しました。



佐賀県に第3の拠点となる「九州オフィス」を設立

佐賀県および公益財団法人佐賀未来創造基金と進出協定を締結しました。それに伴い、佐賀県唐津市に九州オフィスを設立。佐賀県を中心に、九州エリアのプロボノを通じた社会参加の推進を進めていきます。（詳細はP4へ）

ママボノのブランドリニューアルと効果検証を実施

HERstory Career Partner Program（日本ファンドレイジング協会主催、JPモルガン・チェース協賛）の助成を受け、ビジョン策定やロゴ・コピーを刷新。またインパクト評価を行い、ママボノ参加者の変化や復職後の行動を可視化しました。

ママボノ
mamabono

ママたちは不安を抱えながらも大きな力を持っています。プロボノを通じて、その力が前向きな変化として現れる瞬間を何度も見えました。ママの一步が社会へ広がり、日本のジェンダーギャップ解消にもつながると信じて取り組んでいます。（ママボノメンバー）

大学と地域をつなげるプロボノが実装へ

「YOUTH プロボノ」を実施した3大学において、参加学生の91%が成長を実感し、87%が社会課題を自分事化しました。専門性を活かした多世代共創モデルとして、次世代教育の基盤を築く大きな成果となりました。

YOUTH
プロボノ

新たなプログラム「プロボノ・テーブル」を実施

新たなプログラム「プロボノ・テーブル」を春と冬に2回実施。のべ94名のプロボノワーカーと15の団体が、団体の課題解決に向けて共に取り組みました。



『プロボノ白書2025-20年の軌跡が拓く、共創の可能性-』公開

長年構想をあたためていた「プロボノ白書」。サービスグラント20周年の節目に、パナソニックグループよりお声がけいただき、企画、制作がかないました。サービスグラントの知見や実践事例を中心に、プロボノの概要、社会への広がりとその背景、プロボノがもたらす「変化」や共創の可能性を紹介しています。



プロボノの「成果」とは、団体の活動の発展とともに、関わったすべての人の「変化」です。その視点でプロボノの歴史を振り返り、事例やデータを集めてご紹介していく中で、あらためて可能性の大きさを感じ、ワクワクしました！この白書をきっかけに、関心を持ってくださる方が増えたらうれしいです。（栗原）



支援先NPO団体からも非常に高い満足度と感謝の声をいただき、この活動が有益であることを実感しています。大学×学生×地域×NPOの推進と、日本の若者が社会参加する文化を醸成していきたいです。（草野）

共同代表対談

「一人ひとりのアクション」と「共創」を生み出し続ける。

20周年の歩みへの感謝。見えてきた現在地

岡本：この1年は、「プロボノ白書」をまとめたことで、自分たちが歩んできた20年の道のりを検証し、この先の兆しを見出す節目にもなりましたね。

横野：白書制作の過程で、本当に多くの取り組みにチャレンジしてきたのだと再認識しました。時間の移り変わりや社会の変化の中でも、プロボノは必要とされ続けてきたんだと感じています。

岡本：この20年は、一人ひとりが目の前の社会課題に、何らかの具体的なアクションを起こすことで、「自分たちの社会は自分たちでつくる」という土壌を耕していくような挑戦だったと思います。

公益的な活動に取り組むNPO・地域団体等のみなさんのもとに共感するプロボノワーカーが集い、共に成果を目指す。この意欲的な挑戦において、企業や自治体のみなさんとも協働することで、「地域づくり」「関係人口」「企業の社会貢献」「人材育成」などといった、さまざまな文脈へと広げ続けることができてきました。改めて、共に取り組んできてくださった方々への感謝が込み上げてきます。

横野：本当にそう思います。サービスグラントが日本で、多様なビジネススキルを活かす文脈でのプロボノを始めたのは、米国からヒントを得たことがきっかけでした。また、グローバル・プロボノ・ネットワークでの情報交換からヒントを得て「GRANT」の開発につながりました。長年にわたる海外との交流からも、土壌を耕していくのに大事な仕組みづくりへとつながっています。

日本の社会インフラは、これまで行政や企業が強固に支えてきました。人口減少時代を迎え、その形も変わりつつある中で、自らの役割を広げて関わる、主体者になっていくことが求められると思いますし、そのきっかけの1つがプロボノなのだと実感しています。

社会課題と自分のつながりを捉え直す学びの場

岡本：サービスグラントでは、NPO・地域団体の運営基盤の強化をサポートする事で社会課題解決が加速するように、とマッチングに取り組んでいます。加えて、参加する方々にとってのプロボノでの出会いと実践は、社会貢献活動であると同時に『生涯学習』や『大人の探究学習』『大人になっても成長できる場』にもなっていると私は捉えています。

横野：既に活動されているNPOのみなさんは、課題の当事者だったり、それに触れてほっとけないという気持ちで動かれている方々。普段、ニュースで見聞きする問題も、会社や家庭で過ごすだけでは実感がわきにくいですが、プロボノは現場のリアルを見て触れるような感覚もあり、社会課題に関わるための入口になっていると感じます。



岡本 祥公子
共同代表



横野 吉晃
共同代表

岡本：プロボノは目的ではなく手段。参加する人にとっては、誰かのために活動することで、知っているようで実は知らなかった社会に気付いて、向き合うべき課題を実感し、そこから次の行動につながっていくきっかけのひとつです。一人ひとりが、自分も社会を創る一員なんだという実感が芽生えていく機会になっています。

共創のハブとして、インパクトの桁を変える

横野：20周年の中でもうひとつ大きなニュースは、プロボノ登録者1万人突破でした。

岡本：1つのマイルストーンを通過した感覚はありますし、プロボノという社会との関わり方に共感してくださる方々の力強さを感じています。「活動に協力をしたい」「より良い社会づくりに向けて一緒に何かしたい」と思っている味方がたくさんいる。そのことを、非営利活動に取り組む方やその力を必要とする所に届け続けていきたいです。

横野：この1年は、組織の体制変更があったことで、スタッフ同士の対話の機会が増えたと思いますし、様々な新しい取り組みに、一人ひとりが主体となって動いています。プロボノ経験者である社会人と学生がともに活動する「Youth プロボノ」や、クリエイターの方で課題解決力を底上げしようとする「クリエイティブ・プロボノ」。佐賀県の「九州オフィス設立」で地方の展開もさらに進んでいます。

岡本：人口減少における課題先進地域にこそ、「地域を超えて一緒につくる未来」を届けたいという思いがあります。過疎地域での取り組みは、引き続き模索していきたいですね。

これからも、サービスグラントが様々なステークホルダーのハブとなって共創の機会を作る力を高めていきたいと思いますし、日本発の「ママボノ」が世界に展開したように、新しい参加の仕組みを作ることで、協働先、参加者、社会に対して乗数的な価値を生み出していくことを目指したいです。

横野：「プロボノをやってよかった」という経験が伝播し、参加の循環が生まれ続けるよう、ここから先は今の「桁」を変えるようなインパクトをみんなで生み出していきたいですね。



「プロボノ白書」はウェブからもご覧いただけます



NEW PROJECTS

新たな取り組み

プロボノによる地域活性化を佐賀県から九州全域へ！「九州オフィス」設立の裏話

「九州にプロボノを広げたい」と熱い思いと体験を持つスタッフが入職した翌年の2025年12月。佐賀県との進出協定を契機に、サービスグラントは九州オフィスを開設しました。九州では、地域の特色を活かしながら、行政・中間支援団体・企業・市民が連携することで新たな共創の形がつけられています。なかでも佐賀県は、日本で初めて「国連公共サービス賞」を受賞するなど、県民協働の取り組みを強く進めています。そんな佐賀で、10年以上前にもともにプロボノ事業に取り組んだ関係者と、あらためて協働を広げられるという機会にも恵まれました。佐賀県ならではの土壌を活かし、佐賀県、そして九州から、地域の想いと人の力が交わる持続可能なプロボノの可能性を広げていきます。



佐賀県では、進出に関する協定式も開催されました。



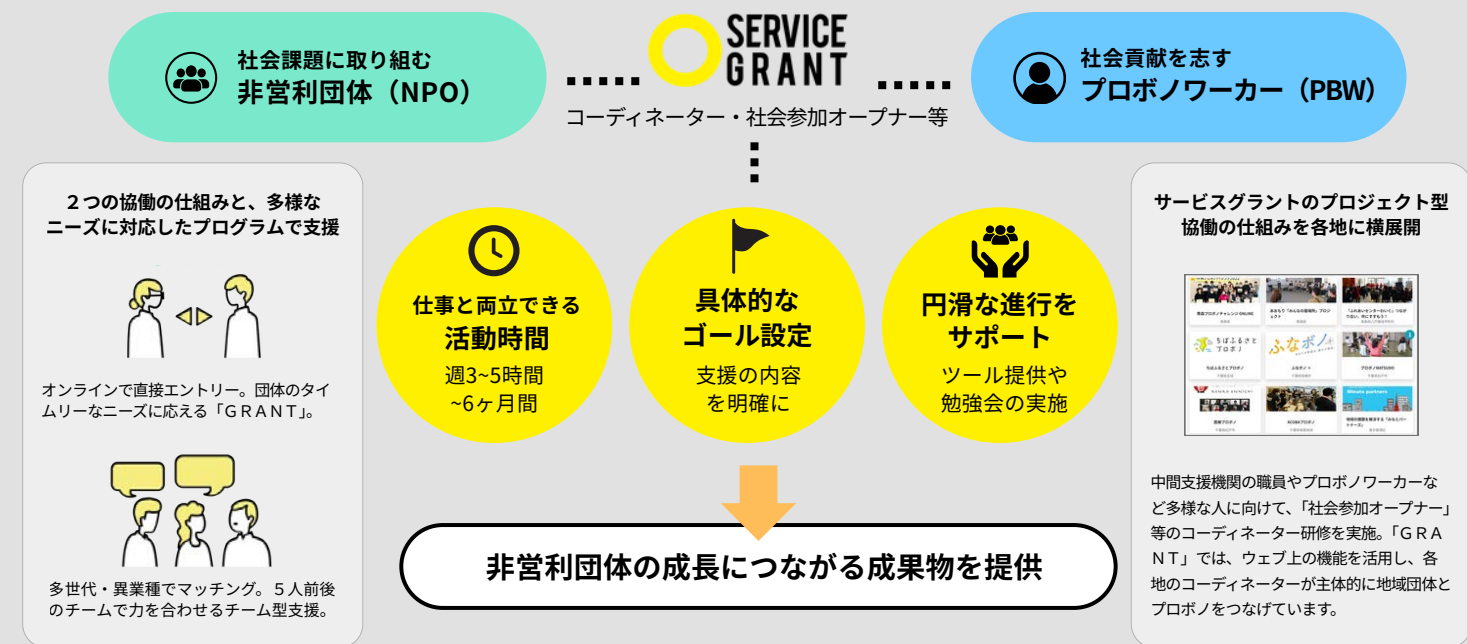
人口約3,300人の小さな町で活動する団体で、プロボノの支援の手を差し伸べてもらった経験が原点です。人と地域が支え合う循環を、佐賀県そして九州から育てていきます！九州オフィス担当 横道

WHAT WE DO

サービスグラントの取り組み

サービスグラントの《プロボノ》と《プロジェクト型協働》

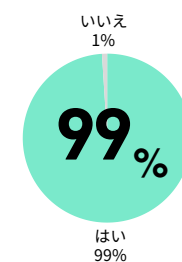
仕事で培った経験やスキルを活かした社会貢献活動「プロボノ」。その力は、非営利団体にとって活動の大きな推進力となります。複雑な課題を抱える団体と、外部の多様な人との協働を成功させるうえでカギとなるのが「プロジェクト型協働」です。サービスグラントでは、多様な主体が地域を超えてつながりえる仕組みをつくるために、日々改善と試行を繰り返しています。



非営利団体 NPO へのアンケート

「支援を受けてよかった」

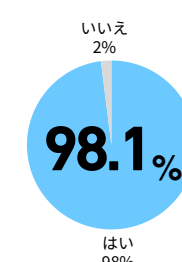
(~2025年度)



プロボノワーカー PBW へのアンケート

「よい印象を持っている」

(~2025年度)





斉藤 容子 さん

一般社団法人 ルンアルン
代表理事

活動概要

東京都武蔵野市で精神・発達障害者の就労を支援。就職をゴールとせず、働くことで自分らしい生き方に近づくことを目指しています。利用者ごとに担当者やオーダーメイドの個別支援により、障害の程度を問わず迅速かつ柔軟にサポートしています。

プロジェクトの内容

2021年の「ママポノ（育休・復職中のママによるプロボノ）」での中長期事業計画立案を皮切りに、プロボノチームによるウェブサイトリニューアルを実施。その後も「GRANT」を通じたリーフレット制作や動画制作など、複数のプロジェクトを通じてプロボノと協働。

“ プロボノと歩んだ5年間。
「味方がいる」という実感が活動の推進力に

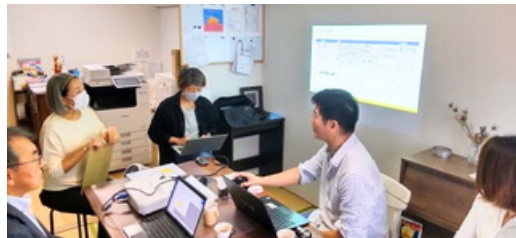
「外からの目」が教えてくれた、ルンアルンの真の強み

私たちがプロボノ支援を最初に受けた際、最も大きな壁は「自分たちの困りごとをどうプロジェクトとして定義するか」という点でした。サービスグラントの事務局担当と相談し、まずは「認知度を広げる」という大きなテーマから、具体的な支援メニューを切り出していきました。2021年に取り組んだ事業計画立案では、ママポノ（育休中・離職中などのママによるプロボノ）のメンバーとともに、単に計画を作るだけでなく、自分たちが何を大事にするのかという指針を整理することができました。プロボノチームとの協働で驚いたのは、自分たちでは気づかなかった「団体の強み」を可視化してもらえたことです。プロボノワーカーさんから「すごく熱い活動をしている」と言われ、それが団体の特色であることを認識しました。

次に行ったウェブサイトのリニューアルプロジェクトにおいても、この成果が活きてきました。刷新後は、初めて私たちの場所を訪れる方から「スタッフの顔がわかったので、安心していけました」「道案内を見て迷わず来られました」といった反応をいただけるようになりました。企業プロボノのプロジェクトでは、これらに加えて紹介動画を作ったり、SNSでの発信も整理され、情報の質の向上が、利用者さんの第一歩を後押しする大きな力となっています。

「孤独」ではない。応援してくれている人が外にもいるという自信

プロジェクトが終わっても、その後続く「つながり」を得られています。「知見のある人にもいつでも相談できる」という状態は、ITスキルの乏しい私たちにとっての安心感となっています。福祉の仕事をしていると、時として孤独感のようなものを感じることがあります。しかし、全く異なる業界で活躍するプロの方々、自分たちの活動に関心を持ち、一生懸命に伴走してくれたという体験は、団体自体の「自己肯定感」を大きく引き上げてくれました。



ウェブサイトのプロジェクトでは、2日にわたってメンバーが事務所を訪問。

助けになりたいと思ってくださっている方がいて、お願いすればいい。力を借りて、協力を仰ぎながらやっていける。プロボノの力を借りるようになってから5年になりますが、プロボノワーカーさんのことを「一緒にプロジェクトを進めるチーム」みたいに私は感じています。

社会参加マッチングプラットフォーム「GRANT」を活用したNPOの声



松尾 直幸さん
ノルディック
ウォーキングSALC

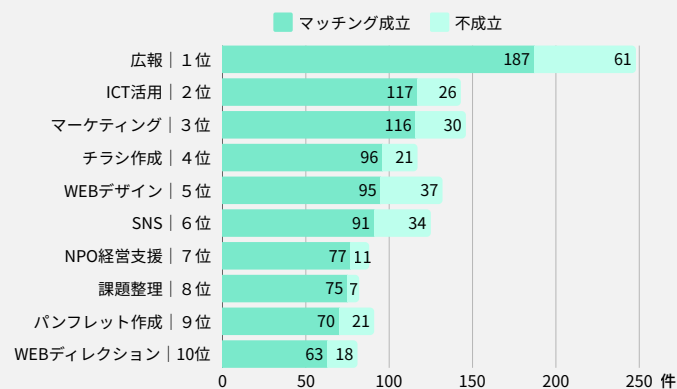
セミナーをきっかけにGRANTを知りました。複数の方とのやり取りで多くのアドバイスをいただき、自分の考えを整理するきっかけになりました。今後は、自分がGRANTを使って体験して良かったことを、「社会参加オプナー」として周りに伝えていきたいと考えています。



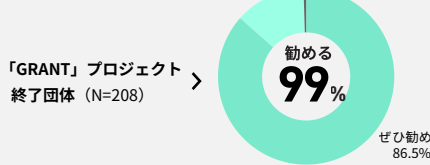
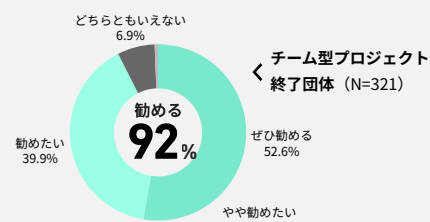
▲続きはこちら

● プロジェクトの成果 (～2025年度支援実績より)

👑 「GRANT」におけるマッチング成立件数ランキングTOP10



Q. 他団体に勤めたいと思いますか？



プロジェクト件数：



(2025年4月～2026年3月までの実施・完了)

“ サービスグラントで出会った団体で、
プロボノとしての関係を継続

単なる学びを超えた、深い共感を伴う体験

30代半ばを過ぎ、仕事のスタイルや価値の出し方が自分の中で固まってきた頃、ふと「このスキルを仕事以外でも活かさないだろうか」と考えるようになりました。今、私が支援している「ウェルネスサポートLab」は、働き世代が抱える生きづらさの解決に取り組みながら、看護師の新しい働き方についても提示している団体です。私の本業もヘルスケアですが、この団体が向き合っているのは、病気の手前にある「不安不調」や、日常の中に埋もれている「気づかれにくい生きづらさ」です。その活動に触れることは、私にとって単なる学びを超えて、自分自身が本当にやりたかった領域に触れるような、深い共感を伴う体験でした。

サービスグラントのプロボノプロジェクトが終わった後も、活動に関わりたいという気持ちがあり、団体代表に直接その想いを伝えました。今では、月に1回程度、私が代表や理事の「壁打ち相手」のような立場で関わっています。「話しやすいし、分かってくれるから色々相談したくなる」と言ってもらえたのは嬉しかったです。私自身も「ウェルビーイング」な感じで関わらせてもらっています。

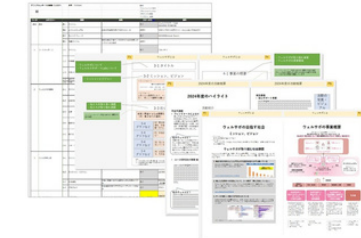
お金という対価ではない場所で、誰かの役に立つこと

私にとっての幸せとは何かを突き詰めていくと、それは「助けさせてもらえる環境で『ありがとう』と言いあえること」や「そこに自分の役割があること」だという答えに辿り着きました。

仕事だけで自分の経験を使い果たすのはもったいない。お金という対価ではない場所で、一人の人間として誰かの役に立ちたいという想いが、プロボノへの純粋な動機となりました。サービスグラントでの活動をきっかけに、「ウェルネスサポートLab」と出会えたことに、とても感謝しています。



オンラインで実施した最終提案時の様子



プロボノチームから提案した構成案



実際に出来上がったアニュアルレポート

社会参加マッチングプラットフォーム「GRANT」を活用したプロボノワーカーの声



北村 由衣さん
自営 (IT分野)

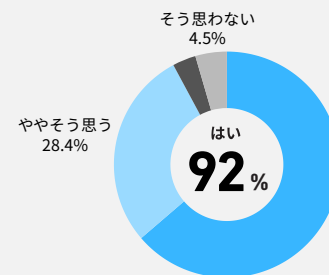
募集に目を通していているうちに、専門領域である「経理事務×デジタル」の案件に出会えました。ブックマーク機能の「気になる」に登録したところ、団体さんから数日後に「ぜひお願いできませんか？」とメッセージをいただいて参加を決めました。やり取りの中で、自分自身も成長できたと感じています。



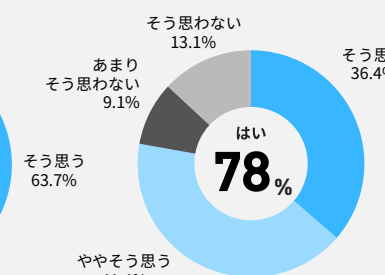
▲続きはこちら

● プロボノ参加者の変化 (～2025年度参加者の回答)

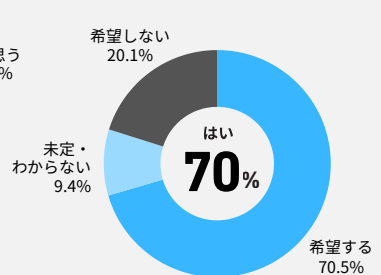
Q. 自身の視野が広がったり、人間的成長につながった (N=3,794)



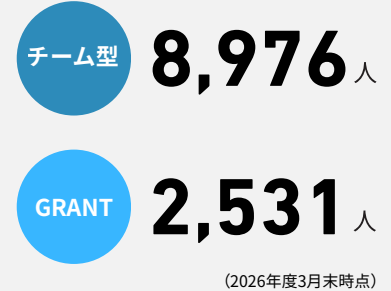
Q. 社会に対して役に立っているという実感がもてた (N=3,665)



Q. 「GRANT」でのプロジェクト終了後も団体との継続的な関わりを希望しますか？ (N=616)



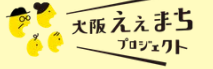
プロボノワーカー登録者数：



EXPANDING COLLABORATION

行政協働


大阪府 福祉部
高齢介護室介護支援課



大阪ええまちプロジェクト

高齢者の生活支援・介護予防につながる地域活動へのプロボノ支援に加えて、市町村のデータ分析支援「大阪ええまち調査隊」を実施しました。

千葉県



ちばボランティアナビ

千葉県内のボランティア促進・定着のため、16団体の個別支援、年10回の体験会を実施。マッチング支援を通じて年2,431人の参加を実現しました。

東京都スポーツ協会

競技団体等
組織基盤強化 外部連携支援

都域で活動するスポーツ競技・種目4団体および地区体育・スポーツ協会2団体に対して、25名のプロボノによる協働プロジェクトを実施。運営基盤強化につながる成果物を提供しました。

その他の協働先

- 兵庫県企画部地域振興課
- 松戸市 福祉長寿部高齢者支援課
- 武蔵野市 市民部 市民活動推進課
- 四日市市 市民生活部市民協働安全課 ほか (五十音順)


Kids Code Club



プロボノマネジメントプロジェクト

プロボノとの協働に関するノウハウをお伝えし、プロボノマネジメント体制の構築に向けた伴走支援を実施しました。

全国こども食堂支援センター・むすびえ



まなび・キャリアをテーマにしたチャレンジ応援

助成金とプロボノ支援を組み合わせた新プログラム。香川、新潟、大分の3団体の各課題解決を支援。こども食堂の課題整理ワークショップにも取り組みました。

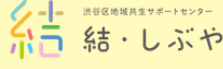
東京都つながり創生財団

地域活動支援事業

まちのつながり応援事業

より良い地域づくりを目指す都内の町会・自治会を支援。2017年より172団体を支援しました。参加したプロボノワーカーはのべ410人以上です。

渋谷区社会福祉協議会



渋谷区地域共生サポートセンター


渋谷区における重層的支援体制整備事業の一環として、社会福祉協議会と協働し、団体支援等を通じた地域づくりの取り組みを実施しました。

東京都障害者スポーツ協会

パラスポーツ団体
体制強化支援事業 外部連携支援

都域で活動するパラスポーツ競技2団体に対して、8名のプロボノによるプロジェクトを実施。団体の運営基盤強化につながる成果物を提供しました。


神奈川県 横浜市健康福祉局



ハマボノ・オンライン

横浜型地域包括ケアシステムの構築を目指し、地域活動団体とプロボノワーカーのマッチングを実施しました。


山梨県総合県民支援局
まなび支援課



やまなしプロボノ・チャレンジプロジェクト

県内NPOの活動基盤強化と新たな地域活動の担い手発掘・育成を目的に実施し、5団体の支援に18名が参画しました。

協働プログラム①



ふるさとプロボノ

ふるさとプロボノは、地域活性化に取り組む地域の団体と、地域外のビジネスパーソンをつなぐプログラム。地域と都市に新しいつながりが生まれています。

内閣府

関係人口創出・拡大のための対流促進事業


ビジネス経験者の事務処理スキルを活かし、中山間地域の関係人口としてつなぐモデル事業。地域との新たな関わりを創出するとともに、農業振興への寄与を目指しました。新潟県小千谷市では1名のワーカーが成果物を納品し、佐賀県神埼市では2名のワーカーに対して研修会でヒアリングを実施しました。

NTT東日本
地域循環型ミライ研究所

地域の郷土料理伝承プロジェクト

きゅうらぎみんらの食堂を支援先団体として、郷土料理伝承事業にNTT地域循環型ミライ研究所メンバーが調査という形で事業を実施しました。

協働プログラム②



プロボノリーグ

複数組織、異業種のメンバーでチームを組んで取り組む、人材育成・越境学習プログラム「プロボノリーグ」。NPOの課題解決に、8社15名が取り組みました。

参加組織 (表記五十音順)

- 株式会社アイシン
- 株式会社ウラボ
- 東日本旅客鉄道株式会社
- 株式会社JTBコミュニケーションデザイン
- 株式会社ドコモCS四国
- パナソニックオートモーティブシステムズ株式会社
- フコクしんらい生命保険株式会社
- 長崎県

協働プログラム③



スコーパソン

スコーパソンは団体の課題を棚卸して整理し、具体化・言語化された支援ニーズ(スコープ)へと落とし込むことで団体の支援機会を創出することをめざす短期集中プログラムです。社会課題に向き合うNPO・地域団体等を身近に感じるきっかけとして、企業の皆さまにご参加いただきました。

参加企業

- 東邦ガス労働組合

企業協働

株式会社三井住友
フィナンシャルグループ

SMBCグループ
プロボノワークプロジェクト

6団体を対象に、26名のグループ社員が参加し、6ヶ月間をかけて営業資料作成や課題整理等のプロボノの支援を実施しました。

SAPジャパン株式会社

SAPジャパンプロボノプログラム

社員自らが主体的に、CSR活動の一環としてプログラムの運営から実施までを担いました。2025年は16名の社員が、3団体の課題解決に取り組みました。

株式会社シーエーシー

越境学習「プロボノ」

社員が多様な価値観に触れ、自身の視野を広げることを目指し、初めてのプロボノ企画を実施。7名の社員が2チームに分かれて、1団体の課題整理に取り組みました。

富国生命保険相互会社

新経営塾 プロボノ研修

若手社員の自律と社会感度を高める目的で研修形式で実施。2025年は36名の社員が4名程のチームを編成し4団体を支援しました。

富士通株式会社

富士通プロボノプログラム FUJI bono

社員のコミュニティ活動の一環として、GRANT Bizを活用した1日~2ヶ月のプロジェクトを実施しました。12名の社員が6団体7プロジェクトに取り組みました。

三菱商事株式会社

三菱商事 1 DAYプロボノ

NPO等の4団体に対して、組織運営上の課題を棚卸し、取り組むべき解決策を提案。現場のリアルな課題を知る機会となりました。

その他の協働先

- artience株式会社
- 大阪ガス労働組合 (五十音順)

広がる協働

2025年度協働プログラムの実績

2025年度までに、企業35社、35の行政機関、16の財団・中間支援組織と協働プログラムを実施

サービスグラントを通じて実施されたプロボノプロジェクトは2,400件以上。NPOやプロボノワーカーだけでなく、企業・行政・財団・学術機関など、多様な組織・人々と共に、社会課題解決に向けて協働しています。



企業協働の詳細



行政協働の詳細

※支援先団体所在地の都道府県を、これまでに実施したプロジェクト件数に応じて色分けしています。
◎は各種機関との協働プログラムの実施エリアを表しています。


シングルズキッズ



ボランティアと当事者をつなぐ、とおい親戚プロジェクト

ひとり親家庭や若年女性が孤立せず、心身共に健全に成長していける住環境構造構築に向け、プロボノと当事者をつなぎ支援できる仕組みづくりの検討に参画しました。

社会的包摂サポートセンター



情報偏食と若年層の相談支援へのつながりにくさに関する調査

若年層の相談支援へのつながりにくさを「情報偏食」の観点から検証する社会調査において、プロボノチームが当事者インタビューと一次分析を担当しました。

住友商事株式会社

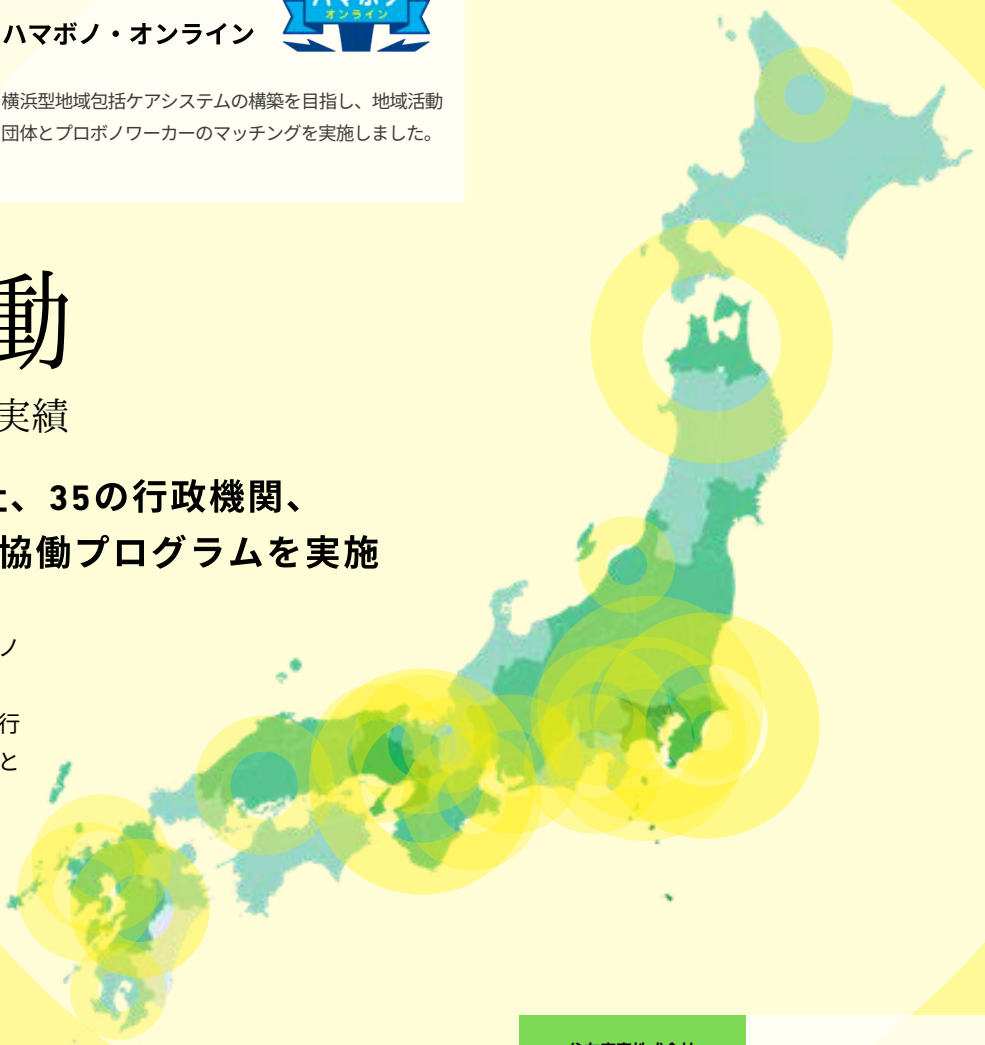
100SEED
参加型セミナー

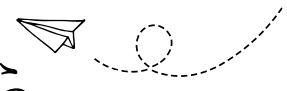
年4回、子どもの体験格差や学習支援に取り組む団体を招き、累計300名以上の役職員が参加。参加者は団体や社会が直面する課題の解決策を提案しました。

株式会社
エル・ティー・エス

エル・ティー・エス Palette by LTS

中四国地域においての大学・研究者の経営面をサポートするプロボノプロジェクトを立ち上げ、プロボノワーカーを共同で募集しました。





島根の農村から

サービスグラントが新しい体制に移行してから1年余りが経過しました。やや遠い場所から、いまま一人のスタッフとして部分的に関わりながら、最近のサービスグラントについて、力強さ、頼もしさを感じながら見ているところです。ウェブサイトやSNSからは、最新の多岐にわたる活動のいきいきとした様子がより伝わるようになりました。面白い切り口のイベントも増えています。それぞれのスタッフが発案し、どんどんと企画を実現させています。内部では、5年後を見据えた目標設定の議論なども進んでいます。フラットかつ自律的な組織は、常に問い直しとバージョンアップの繰り返しです。そのダイナミズムを楽しみながら前に進んでいけるチームが出来上がってきているように感じます。

私は、代表理事退任と同時に島根県の農山村で暮らし始めました。プロボノは、そこに関わるすべての人に越境学習の機会を提供するものですが、いまの農山村での暮らしは私自身にとっての越境学習です。AIが進化し、情報はどこまでも溢れていますが、知らなかったこと、本当の意味で理解できていなかったことも多かったと気付かされる日々。いずれ何らかの形でサービスグラントにフィードバックできるものがあればと思っています。（ファウンダー 嵯峨 生馬）



POWER OF DONATION

皆さまからのご寄付に感謝をこめて

この1年も私たちは、プロボノという社会参加の形を日本社会に根づかせる挑戦を続けてきました。皆さまからのご寄付は、活動を支える財源であると同時に、「この挑戦を続けてほしい」という応援のメッセージとして受け止めています。また、2025年9月、私たちは認定NPO法人としての更新のタイミングを迎え、多くの皆さまから寄せていただいたご支援のおかげで、認定維持に必要な寄付者数の条件も満たすことができました。皆さまのご寄付や応援のお気持ちに、改めて感謝申し上げます。

この一年も、多くのプロジェクトが動き、市民一人ひとりの経験やスキルが、地域やNPOの力につながってきました。誰かのために力を活かす喜び、新しい出会いから生まれる一歩、その積み重ねが、支え合いと共創の輪を広げています。これからも、多様な人が社会と関わり、力を活かせる仕組みを広げていけるよう、次のステージへ歩みを進めてまいります。

サービスグラントスタッフ一同

支援先団体の声

“ NPOの活動は人手不足が大きな課題で、日々の事業活動に尽力するのが精一杯で手を付けられていない業務が多くあります。そこを沢山助けていただきました。

“ 支援する人、支援を受ける人、みんなのドーパミンがふえる活動がたくさんできると良いなあと思います。

“ ご提案いただいた内容はもちろんのこと、プロボノの方とご縁をいただきましたのも大変ありがたいことでした。ありがとうございました！

たくさんの方に支えていただきました

2024年度（2024年10月～2025年9月）

寄付者数 **200** 名

寄付金額 **2,515,955** 円

頂いたご寄付は、いつでもプロボノ支援募集・マッチングができるオンラインプラットフォーム「GRANT」の運用と改良、社会の現状とNPOの課題に寄り添い、社会課題解決の推進につなげるための新たなプログラムの開発などに活用しています。

寄付者の声

“ プロボノ活動を通じて、世の中のいろいろなことを直に知り、また関係する方々と知り合い、活動をご一緒させていただくことで、世に貢献できる機会や経験を得ることができ、大変有意義です！これからも応援しています！

“ サービスグラントさんのおかげで、人生初のプロボノを経験することができました。この楽しさを多くの方に知っていただけたらいいなと心から願っております！これからもさまざまな形で、参加、応援させてください。

“ いつかプロボノメンバーとしてお役にたたいと願っております。応援しています！

FINANCIAL REPORT

会計報告

2024年10月1日～2025年9月30日

（※サービスグラントの会計年度は9月末決算のため、本報告書の内容で含まれていないものがあります）

科目	小計・合計
[A] 経常収益	211,061,164
1.正会員受取会費	108,000
2.受取寄付金	2,515,955
3.受取助成金等	4,360,707
4.事業収益	203,938,549
5.受取利息	137,953
[B] 経常費用	188,414,490
1.事業費	166,152,457
2.管理費	22,262,033
当期経常増減額 (A-B)	22,646,674
[C] 経常外収益	164,378
[D] 経常外費用	0
当期経常外増減額 (C-D)	164,378
税引前当期正味財産増減額 (A-B)+(C-D)	22,811,052
法人税、住民税及び事業税	5,530,900
前期繰越正味財産額	140,215,556
次期繰越正味財産額	157,495,708

事業収益	金額
サービスグラントの提供を通じたNPO支援事業	3,040,214
企業・行政等との連携によるプロボノプログラムの事業	200,622,203
プロボノプログラムの運営を担う人材育成事業	6,132
プロボノの普及・広報・社会的制度化に関する事業	270,000

1.事業費	
人件費	96,134,209
外注費	45,465,377
租税公課	11,960,015
会議費	3,939,804
通信運搬費	2,207,157
旅費交通費	2,276,451
印刷製本費	1,185,101
地代家賃	1,369,392
支払手数料	492,963
その他経費	1,121,988
2.管理費	
人件費	10,693,068
地代家賃	4,686,900
支払手数料	1,340,288
支払報酬料	1,653,850
外注費	1,019,863
その他経費	2,868,064

ご支援の方法

継続寄付と、都度寄付よりお選びいただけます。

継続寄付
毎月一口 **500** 円より

or

都度寄付
一口 **3,000** 円より

ご寄付はこちらから

